

西武鉄道・池袋線

[池袋～吾野]



池袋から吾野までを結ぶ西武池袋線の走行距離は57.8キロメートル。
都心のターミナル駅を出発し、武蔵野の面影残る沿線の街へ。
名所・旧跡に公園、個性豊かな施設——小さな旅を楽しむ。

明治45年に誕生した西武鉄道は、現在では東京都と埼玉県に幹線2、支線11を含む13路線179.8キロメートルを走らせている。

1日の輸送人員が168万人を数える都市交通の担い手として、地域の発展をささえながら「人と環境にやさしい鉄道」をめざしている。

プロ野球が好きなわたしは、西武池袋線といえば所沢のドーム球場と埼玉西武ライオンズがすぐに頭にうかぶ。

元気があり、新しいこと、楽しいことがいつもたくさんある沿線。

そんな西武池袋線の沿線を旅してみた。

まずは江古田駅に途中下車

池袋から普通電車に乗り、最初に降りたのは「江古田」駅である。

この街は大学のキャンパスが3つある学生街として知られているが、駅前の商店街もたいへんにぎやかである。

大正時代からの古い歴史をもつ市場や商店街には、狭い道に少しレトロな雰囲気をもつ果物屋さんやお茶屋さん、お惣菜屋さんなどがならぶ。上野のアメ横をほうふつさせる懐かしさとあたたかさが魅力だ。

駅からすぐのところにある茅原浅間神社には江古田富士とよばれる**富士塚**がある。高さ8メートル、直径約30メートルの塚全体は富士山の溶岩でおおわれている。どっしりと風格のある姿で、お正月や7月の山開きと日曜日などに

どこか懐かしさを感じる沿線の街並み。

だけ「登山」ができる。

10分ほど北へ歩き、武蔵野音楽大学につく。この楽器博物館では世界各国の楽器が展示されている。

1階のフロア全体に置かれた鍵盤楽器の数と種類は圧巻で、とくにナポレオンの帽子の形をしたピアノはユーモアと美しさがあった。西洋楽器だけではなく、民族楽器のコレクションも豊かなのがすごい。孔雀の大きな羽がついたアフリカの民族楽器や、東京下町のちんどん屋さんが30年間使っていた太鼓と鉦「ちんどん」まで展示されている。

どの楽器も眺めているだけで奏でていた人の息づかい、音色が聞こえてくるようだ。地球上のあらゆる人びとの暮らしと信仰に音楽がいかに大切であるかも伝わってくる。

めずらしい楽器が多いのでお勧めのスポット。平日に無料で誰でも見学できる。

古い歴史が息づく練馬の街

次に降りたのは「練馬」駅である。

ここは練馬区の中心となる街で、駅前には区の文化センターとゴールデンウィーク頃に満開となる平成つつじ園がある。

5分ほど歩き白山神社につく。

樹齢800年の大ケヤキがあり、国の天然記念物になっている。うむ、たしかに大きい。

高さは4、5階建てビルほどの19メートル、周囲は8メートル。おとな5人が手をつなぐく



平成の今も、そばが供えられている
蕎麦喰い地蔵。



富士塚は国指定有形民俗文化財。塚の築造は
天保10(1839)年と推定されている。



文・写真 田中ひろみ (脚本家)

text and photographs by Hiromi TANAKA

1959年東京都生まれ。早稲田大学教育学部卒業後、カネボウ宣伝部を経て、脚本家デビュー。土曜ワイド劇場「法医科学の女」など多数。

民鉄

らしいの太さだ。たんに大きいだけでなく、平安時代の源氏の武将・源義家が奉納という立派な由来ももっている。

神社から5分ほど歩くと十一ヶ寺につく。十一の寺のひとつ九品院にはユニークな「蕎麦喰い地蔵」が安置されている。

この地蔵にはこんないわれがある。

江戸時代お寺が浅草にあったころ、門前のそば屋に毎晩ひとりの僧が訪れては、そばの布施をたのんだ。信心ぶかいそば屋の主人は快くふるまったが、あまり毎晩つづくので妙に思いつ、ある晩こっそりと僧のあとをつけていくと、僧は地藏堂の中へ消えてしまった。驚いた主人の夢枕に僧が立ち「おまえは心がけが良いので悪疫から守ろう」と告げた。僧は二度と店にはあらわれないので、主人は毎日そばを地藏に奉納した。その後に悪疫が流行しても、僧のことがどおり、そば屋一家は難をのがれ、店は末永く繁盛し、話をきいたほかの庶民もそばを捧げて祈るようになった…。

平成の今もこのお地藏さんのお供え物として、おそばが積まれているのがおもしろい。

武蔵野の自然がそのまま残る

次は「石神井公園」駅に向かった。

駅から7分ほどの公園は、石神井池と三宝寺池という2つの大きな池を武蔵野の雑木林が囲むかたちになっている。

とりわけ三宝寺池のまわりの沼沢植物群落

豊かな自然と街の活気が奏でるメロディ。

は、天然記念物に指定され、なんと氷河期からの貴重な植物までが生息しているらしい。

人も野鳥ものんびりとし、カモたちは日光浴でくつろいでいた。アマチュアカメラマンに一番の人気はカワセミである。超望遠レンズのカメラが10数台も並んでスターの登場をひたすら待つ。いざコバルトブルーの小さな鳥がとまり木に舞いおると、皆さん息をひそめておそかにシャッターを切っていた。

甘みとコクに秀でた狭山茶

電車は埼玉県に入り、「入間市」駅で降りた。

駅から西武バスで20分ほどの二本松バス停近くに宮寺教会がある。明治時代に埼玉で最初につくられたカトリック教会で清楚なたたずまいである。

そして「入間市博物館アリット」へ。

狭山茶を生産する茶の里にふさわしく、お茶の博物館がある。写真や実物で茶の起源は中国の雲南省にあることや世界中のお茶文化などを楽しく学べ、2階のバルコニーからは丘陵の景色を眺めることができる。

番茶のサーブイスがあり一杯ごちそうになったが、とても深い味わいだった。狭山周辺は茶の生産地としては北限の寒い地域なので、茶葉が厚く、甘みとコクに秀でているそうだ。

西武池袋線の旅は、街も人も、楽器も、木も、鳥も、お茶も、すべてがいきいきと調和して、メロディを奏でているのが魅力であった。



入間市博物館アリット
2階のバルコニーからの眺め。



石神井公園の三宝寺池沼沢植物群落は
国指定の天然記念物。